

高専通信

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY(KOSEN), TOMAKOMAI COLLEGE

Vol.
170

高専祭

冬季体育大会

保護者懇談会

ロボコン

工場見学旅行

総合研修旅行

ニュージーランド
EIT研修座談会

インターンシップQ&A



2026年3月発行

苫小牧工業高等専門学校

〒059-1275 苫小牧市字錦岡443 苫小牧工業高等専門学校 総務課総務係

[URL] <https://www.tomakomai-ct.ac.jp> [MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp



2026年、新年のお慶びを申し上げます。

21世紀もSecond Quarterに入りました。世間ではあまり話題になっていませんが、今から百年前の1926年は元号が大正から昭和に変わった年です。かくいう私も昭和生まれです。子供のころの漫画やテレビアニメは手塚治虫の鉄腕アトムに代表される極小ながら恒久的に大パワーを産み出すことができるエネルギー源を内蔵し感情を持ち自ら考えて動く人型ロボットが我々人間と共同して難事件に立ち向かい次々解決する、そんな未来の世界を現したものでした。ここ数年、この昭和のアニメを彷彿させる風景が実際に出現してきているのを身近に感じるようになってきました。第四次産業革命です。これはAIやIoT、ビッグデータなどのデジタル技術による技術革新を指しますが、衝撃的だったのは2022年11月に米OpenAI社が生成AI、「ChatGPT」を発表したことでした。生成AIは学習成果として新たなコンテンツを創造するものですが、スマホという“掌コンピューター”さえあれば数学やプログラミング知識が無くとも誰でもいつでもどこでも無料で利用することができます。それから3年、生成AIを巡る技術開発は飛躍的に発展し続け、自動応答や自動運転など人間に代わる業務代行（省力化、効率化）に留まらず、コンテンツ制作やアイデアの創出など高度な知的作業をこなせるレベルにまで進化しています。まさに我々の労働や仕事、産業や社会構造、さらには人間の営みや幸福といった概念までも根本から変わろうとしています。これこそが第四次産業革命に続く第五次産業革命（インダストリー5.0）の本質とも言えます。21世紀のSecond Quarterは技術と人間が協働し「人間らしさ」、「幸福」、「共感」を中心に据え、心と体の幸福を経済の中心にした“ウェルビーイングエコノミー”社会になっていくことでしょう。

さて、我が校は昨年度、開設60周年を祝うとともに、DX人材育成、半導体人材育成、グローバル人材育成と様々な新たな教育に取り組み始めました。「高度情報人材の確保に向けた機能強化に係る支援事業/本校 DX・GXなど

の成長をけん引する高度情報専門人材の育成・輩出」事業ですが、全学生を対象にしたAI・データサイエンスの講義については全国の高専に先駆けて第3学年修了時（全学生 毎年度200名）に文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム・応用基礎力レベル」の認定を受けて実施しています。講義では本校の先生方に加え実業界からも講師陣を迎え様々なDX・GXの取り組みを紹介していただき、学生も能動的にビジネスプランの創出に挑戦し368名の学生が71件のビジネスプランを応募するなどアントレプレナーシップ教育も同時に推進しています。これらの取り組みが評価され、日本政策金融公庫主催の第13回高校生ビジネスプラン・グランプリにおいて「学校賞」を受賞しました。一方、本年4月の新年度からは電気電子系と情報・工学系を統合して新たに定員80名の情報エレクトロニクス系を創設し、現在の1学科5専門系から1学科4専門系に再編して教育・研究を行ってまいります。半導体教育に関しても北海道内の10大学・4高専が連携して共通の半導体教育プログラムを実施し始めました。特に、道内4高専は共同で15回分の講義コンテンツを作成し、オンデマンドで遠隔受講が可能な「北海道半導体みらい論」を開講しました。また、道内各地で出前授業を実施するなど多方面で新しい取り組みを展開しています。昨年10月1日には2名の新しい教員、電気電子系の谷口美緒准教授、情報科学・工学系の大川創助教を迎え、新年度からの情報エレクトロニクス系においてフレッシュな教育と研究の実践、そして学校運営への貢献も期待されます。

最後となりましたが、学生諸君、教職員諸氏、そして卒業生の皆様、本校を支援していただいているすべての方々におかれまして、幸多き輝ける一年となりますことを心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新学生会長

直江 芯太郎
4年1組

こんにちは！この度新しく学生会長に就任しました、機械系4年の直江芯太郎です。今まで会計次長、会計長を務めさせていただき、今回会長という大きな役割を担わせていただけることに感謝し自身の能力を最大限発揮できるよう努めます。

学生会では、高専祭や対面式などの学校行事の運営、評議会や学生総会を通しての予算・委員会の管理、他高専学生会との交流を主に様々な活動をしています。今年度は学生会内の組織体系や予算の見直しを行い、多くの変化がありました。来年度は対外的な活動に注力し、これまでにない試みを多く取り入れると共に本校の伝統的な行事を今まで以上に盛り上げていきたいと考えています。

コロナ時代で失われてしまった行事や伝統はまだ多くあり、中には復興することが難しいものも少なくありません。しかし、このような状況だからこそ我々高学年は先輩から学んだスキルを存分に発揮し、学校全体を活気づける礎となる責務があると考えています。幸い、学生会運営は学生の皆様の協力もあり現在とても円滑に進んでいます。優秀な執行部の同期や後輩達と共に、短い一年間の中で学生全員がより過ごしやすい学校づくりを目指していきます。至らないところもあると思いますが、皆さんよろしくお祈りいたします。



男子寮新寮長

早坂 頼人
4年1組

この度蒼冥寮新寮長に就任した、機械系4年早坂です。歴代の寮長に比べると力不足だと自覚していますが、受け継がれてきた寮長の誇りを胸に励んでいきます。

寮は少し特殊な環境で、人によっては受け入れられないことも多々あると思います。昨今のSNSの普及で対面で話す機会はかなり減ったと思います。ましてや、初対面の人たちと寝食を共にするなんて、人によっては体験しないこともあると思います。しかし、コミュニケーション能力というのは時代の変化の中でも必ず残るもので、特に先輩後輩を主とした縦関係は社会に出てからも必須です。最初のうちは慣れない環境に困惑し辛いと思いますが、気づいたら楽しい生活に変わっています。そんなところが蒼冥寮です。

自分には、寮長としてこの素晴らしい学びの場を守り、より良いものにしていく責任があります。同級生、先輩後輩にリスペクトを持ち、全寮生が満足する5年間を過ごせるようにしていきます。



女子寮新寮長

吉村 凜子
4年3組

新しく楓和寮長を務めさせていただくことになりました、4年3組の吉村凜子（よしむらりんね）です。このような大事な役目をお任せいただき、責任の重さを強く感じるとともに、約60名の寮生の寮生活を支えていけることを嬉しく思います。

寮は、同級生や先輩、そして後輩という家族とは違う存在と衣食住をともにする場です。互いの部屋を行き来して談笑することや、気軽に一緒に遊びに出かけられる距離の近さは、寮ならではの大きな魅力ではないでしょうか。その一方で互いに気を遣う場面があったり、ルールや規則の捉え方が人によって異なったりと、戸惑いが生じる場面も少なくないと思います。

そこで私は寮長として、曖昧になってしまっているルール、規則をひとつひとつ見直したうえで、誰にとっても分かりやすい形に整えていきたいと考えています。

また、Google Formsを用いた目安箱を設置し、生活の中で生じた疑問や意見を誰でも気軽に伝えられる仕組みを整えていきます。受けた意見は大切に受けとめ、寮の運営に反映させていくことに努めます。

皆さんと協力しながら、安心して快適な生活を送ることのできる楓和寮を築けるよう1年間精進してまいりますので、よろしくお祈りいたします。



高専祭について

高専祭実行委員長 4年2組 縣 晃一

今年度、高専祭実行委員長を務めさせていただきました、4年都市・環境系の縣晃一です。今年度の高専祭は、さまざまな事情が重なり、予算面において非常に厳しい状況の中での開催となりました。そのような制約がある中でも、多くの学生の皆さんの協力とアイデアを結集することで、無事に高専祭を開催することができました。特に実行委員の皆さんには、限られた予算や時間の中で、イベントの企画・運営に全力で取り組んでいただき、心から感謝しています。その努力のおかげで、多くの学生や、外部から来校してくださったお客様に楽しんでいただけたことが、何より嬉しく感じています。また、地域の方々をはじめ、キッチンカーの出店費用のご協力など、学校内外の多くの皆様に支えていただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

例年以上に、学生同士がそれぞれの立場から意見を交わし、学年・学科の垣根を越えて、新たな形で学校祭を成功させようと、全学生が一丸となって努力できたことは、まさに今年のテーマである「Re:START」を体現していると感じています。実行委員長として至らない点も多く、学生の皆さんにはご迷惑をおかけしたこともあったかと思いますが、最後まで支えていただき、本当にありがとうございました。



皆さんこんにちは。体育委員長の遠藤勝三郎です。

皆さんのご協力もあり2025年も冬季体育大会を開催することが出来ました。当日は冬の寒さの中ではありませんでしたが、予定されていた全ての競技を無事に行うことができました。体育大会の責任者として、他では得られない、経験・責任・達成感を得ることができました。

今年の競技はフットサル、バスケットボール、卓球、女子ドッチボール、学科対抗綱引き、eスポーツと例年に比べて数が少なくなっていました。

開会式後に行われたeスポーツではWiiのチャンバラを行い、懐かしさからプレイヤーだけでなく見る側の人達にも楽しんでもらえたと思います。また、冬季大会ならではの

体育委員長 5年3組 遠藤勝三郎

の楽しさを感じる場面が多く見られました。屋外では雪が積もる中での綱引きが行われ、足元の悪い状況にもかかわらず、各学科が違う学年と力を合わせて懸命に綱を引く姿が印象的でした。多くの学生にとって、仲間と協力し合い、冬ならではの思い出を作る貴重な一日になったことと思います。

最後になりますが、体育大会に参加・協力していただいた皆さんに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後も体育委員の活動に、ご協力をよろしくお願いいたします。



冬
季
体
育
大
会

令和7年度 保護者懇談会の実施報告

教務主事補 山本 椋太

保護者懇談会

令和7年度の保護者懇談会を10月31日（金）に実施いたしました。保護者懇談会には計724名（当日以外に懇談された方が271名、Teamsや電話等を用いたリモート懇談が93名、出席率は73.0%）の保護者の皆様にご参加いただきました。お忙しい中ご出席いただきましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。教職員と保護者の皆様が情報を共有し連携していくことが重要であり、保護者懇談会はこのような情報交換・共有、および連携の一助となる機会となるものです。そのため、来年度以降に向けて、よりよい行事となりますように準備・検討を進めていく所存でございます。

保護者懇談会では主に第4学年の保護者の皆様を対象として今後の就職・進学に向けた各専門系教員による進路説

明会を午前・午後の計2回実施いたしました。各専門系での就職・進路状況をご確認いただくとともに、ご家庭でもよくお話をさせていただきますようお願いいたします。

また、1～3年生は創造工学やHR等の授業において様々な進路を選択した卒業生による講演会や苫小牧高専協力会企業の方々との懇談会など学生自ら進路を考える機会を設け、キャリア教育を進めております。低学年のうちからご家庭でも進路について話題に取り上げていただけますと幸いです。

最後になりますが、保護者の皆様におかれましては、今後とも学校およびその窓口となる担任との連携を密にし、苫小牧高専における教育・研究、学校・寮生活等へのご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



『科学のとびら2025～苫小牧高専実験教室～』を開催しました

地域共同研究センター長 高澤幸治

10月18日（土）にイオンモール苫小牧1階ウエストコートにて、小・中学生を中心とする苫小牧市近郊の住民の方を対象とし、「科学のとびら2025～苫小牧高専実験教室～」を開催しました。

本事業は、地域の小・中学生をはじめとする地域住民に対して、科学に触れる機会を提供し、その楽しさ、面白さを知ってもらうことや、理科離れが叫ばれる小・中学生に、科学への興味を持ってもらう「きっかけ作り」の一助とすることを主目的として実施しています。

今回は、教職員と学生により「ソーラーカーを作ってみよう」「風船ホバークラフトを作ってみよう」「光るスライムを作ってみよう」の3つのテーマの他、イオンモール苫小牧20周年記念企画として、「3Dプリンターとレーザー刻印の動態展示」を用意しました。当日は朝から多くの方に来場いただき、約300名の方々に参加いただきました。

参加者からのアンケートでは、「3Dプリンターを見ることができて楽しかった」「実験が大好きなので、また参加したい」「子供が興味を持って楽しんで」など好評いただき、地域の皆様に科学への興味をもってもらう一助になったものと思われま。

終わりに、本事業に協力いただいたイオンモール苫小牧関係者の皆様、教職員並びに本校学生、そして当日来場くださった参加者の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。



高専ロボコン2025北海道地区大会

ロボットテクノロジー部部長 前野巧嵩

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト（高専ロボコン）は、1988年から始まった、「自らの頭で考え、自らの手でロボットを作る」ことの面白さ、発想することの大切さ、ものづくりの素晴らしさを知ることのできるコンテストです。



昨年は38回目の高専ロボコンで、競技テーマは「Great High Gate」です。この競技はロボットが競技フィールド上にあるボックスを積み上げてゲートをつくり、そのゲートをロボットが人を載せた台車をけん引して一緒に通過するという内容です。「すごい!」、「高い!」と観るものを驚かせる「ゲート」を競技時間内に完成させることが課題となります。

函館高専で開催された北海道地区大会に、苫小牧高専からはAチーム・Bチームの2チームが出場しました。

Aチームの「ザリガニ越え門」は、ザリガニをモチーフにしたロボットで、2本のハサミに模したボックスを掴む機構と、共有ゾーンのボックスを回収するローラー機構が特徴です。装飾としまして、紙粘土で作ったザリガニを選手のヘルメットに乗せるなどの工夫もしました。

Bチームの「イマジナリーフレンド」は、細長いボックスをT字に積み上げることでロボットの最大展開高2500mmよりも高いゲートを作ることが可能です。高いゲートを実現するために、ロボットの前後面にボックスを保持して積み上げる2種類の機構を設けました。装飾に関しても、貝殻や花などの自然を模した文様や幼い頃を彷彿とさせる構図を使うことで、見る人の心に寄り添う柔らかな表現に仕上げました。

惜しくも全国大会への出場は叶いませんでしたが、Aチームはザリガニのデザインが評価されデザイン賞、2本のハサミでボックスを掴む姿が評価され特別賞（マブチモータ賞）を受賞しました。Bチームは、ゲートを他チームよりも高く積み上げられるというロボットの能力が評価され、技術賞と特別賞（東京エレクトロン賞）を受賞しました。

私を含めた5年生のロボテック部員は今回の大会で「ロボコン人生最後の3分間」を終えました。今思うとロボコンに向き合うことでとても濃い5年間になったと感じます。

これからも後輩たちは、地区大会優勝・全国大会出場を目標に、強いロボットを創り、困難に立ち向かっていくことだと思います。これからのロボテック部を後輩たちに託します。

最後に、応援して頂いた樽前会の皆様、OBの皆様、ご指導くださっている先生方、そして、応援・協力していただいている部員のご家族、苫小牧高専の皆様、心より感謝申し上げます。



第3学年 道内工場見学旅行



3年1組
敦賀心楓

僕 たち1組は大樹町にある、あのホリエモンこと堀江貴文氏設立のインターステラテクノロジズ (IST) と、帯広市のエア・ウォーター株式会社を見学しました。ISTならびに大樹町職員の皆様には、なぜ大樹町がロケットの発射場に適しているのかや、今後の宇宙産業の将来性について学びました。また、大樹町は牛の頭数が人口よりも多い地域であり、その特徴を生かして牛の糞尿からエネルギーを生み出す取り組みが行われていてとても印象的でした。(ちょっと臭いはきつかったけど) また、その一環としてそれらの余ったバイオガスは、ISTでは「液化バイオメタン」としてロケット燃料にしたりエア・ウォーターではメタンを抽出し都市ガスとして供給したりする取り組みが行われておりとても感動しました。



3年2組
波辺侑朗

都 市・環境系では、2日間の見学旅行を通して、道内で行われている土木工事の最前線を見学しました。初日は、掘削中のトンネル内部や切羽部分を実際に歩いて見学し、完成前の構造物を見る貴重な経験ができました。懇談会での説明は丁寧で、学生からの質問にも分かりやすく答えていただき、理解を深めることができました。2日目は、北海道新幹線の橋梁工事を見学し、巨大な構造物が正確に施工されていることに驚きました。午後の空港整備事業見学では、土木技術が地域社会や環境への配慮とともに進められていることを学びました。今回の見学は、土木の現場が私たちの生活を支えていることを強く感じ、将来どのような仕事に関わりたいかを考えるきっかけとなりました。



3年3組
羽鳥文賀

応 用化学・生物系ではidemitsu、石屋製菓、HTB、ナチュの森を見学させていただきました。idemitsuでは仕事内容や大規模な設備を見せていただき、石屋製菓とナチュの森では製造過程の一連の流れを見学させていただきました。HTBは応用化学・生物系とあまり関わりがないように感じますが、社会で身につくスキルや、学生のうちに身につけておくことなどのお話を聞き、将来の仕事についてまだ想像がつかない中で貴重な経験となりました。

見学旅行を通して、高専3年生である今、学び続ける力や人間力を成長させていこうと思いました。



3年4組
伊藤徹平

初 日は半導体製造を行っているミツミ電機千歳事業所を見学した。最近千歳にできたラピダスも半導体を製造する企業であるが、ラピダスはデジタル半導体、ミツミ電機はアナログ半導体と競合しないとの話を伺った。午後は、北海道大学にて本校OBの講演会があった。高専時代には成績が良くなかったがTOEICで900点台をとったというエピソードが印象に残った。私も成績が良くないと感じており、TOEICを頑張ろうと思った。2日目の北海道電力石狩湾新港発電所では火力、洋上風力発電を見学した。午後のパナソニックインダストリーではバリスタなどの製造過程を見学した。日常生活では絶対に見られないところを見ることができ、有意義な2日間となった。



3年5組
中谷謙介

今 回の研修では、さくらインターネット、DENSO、北海道大学情報基盤センター、NHKを見学した。特に印象に残ったのは、さくらインターネットと北海道大学情報基盤センターで行ったスーパーコンピュータの見学である。どちらも大規模な計算処理を担う点は共通していたが、緊急時の対応方法や運用体制には違いがあり、用途や組織の役割によって対処法が異なることが興味深かった。また、近年AI技術は急速に発展しているが、NHKでは放送現場において、トラブル対応など状況判断が必要な業務では、AIは導入されていないことを知った。現場では自動化できる部分と人の判断が不可欠な部分が明確に分かれており、技術と人の役割について考える良い機会となった。



第4学年 総合研修旅行



4年1組
土屋輝拓

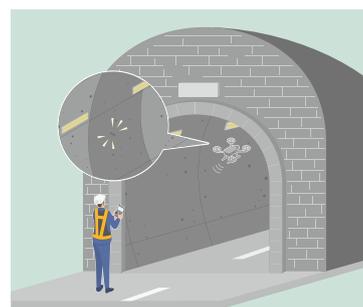
4年1組は、豊田産業技術記念館、トピー工業豊橋製造所、牧野フライス製作所、フジテック東京フィットを見学しました。豊田産業技術記念館では「トヨタ」の歴史や技術の発展を学び、トピー工業豊橋製造所では電気炉による製鉄や鉄を板に加工する工程を見学しました。さらに、牧野フライス製作所では、本校でも使用している工作機械の製造現場を見学し、フジテック東京フィットでは昇降機のメンテナンスを学ぶ研修施設を見学しました。これらの見学を通して、高専での学びが社会で活かされていることを理解するとともに、社会で求められる責任感や姿勢を知り、自身の意識や態度には改善すべき点が多いことを認識しました。最後に、本研修旅行にご協力いただいた企業の皆様、教職員の方々に感謝申し上げます。



4年2組
渡邊ころ

都市・環境系の総合研修旅行では、神奈川県の新善波トンネルの工事現場が1番印象に残っています。ここは2024年8月末に豪雨による大規模な斜面崩壊が発生し通行止めとなりましたが、わずか10日で復旧が完了した場所でした。初めて法面工事の見学をし、足場から法面をつたって普段立ち入ることのできないトンネル上部の作業場に登ったのがとても良い経験となりました。また、OBOG会では高専卒業後の先輩方の活躍を知り、卒業後の自分を思い浮かべながら具体的な就活について考えられるようになりました。

※旅行中はクラスで発熱者が8名。次々と発熱者が増える中で私が生き残った秘訣はR1でした。秋田君がマスクとR1を配ってくれて助かりました。



4年3組
藤山純平

創造工学科応用化学・生物系4年の藤山純平です。先日、行われた総合研修旅行では計4日間で5つの企業見学とOBとの交流会に参加させていただきました。それぞれの企業様でOBの方々や現場で働いている方々に就活に必要なスキルや企業探しで考えるべきことなど大切なことを教えていただきとても貴重な経験となりました。OBとの交流会では実際に在学中にお世話になった先輩などからお話を聞ける機会があり、肩の力を抜いて就職後の私生活などについてお話を伺うことができました。就職する人だけではなく進学する人にとっても未来の自分の解像度を上げるために有意義な時間にするのができ、キャリアの第一歩につながる貴重な総合研修旅行となりました。



4年4組
柳谷選手

電気電子系では、三菱電機ビルソリューションズ株式会社教育センター、株式会社TMEIC府中事業所、NTT技術史料館、ニコミュージアムの計4か所を見学させていただきました。

特に、NTT技術史料館では、NTTの歴史を知るとともに、日本の電話がどのような仕組みだったか、その時使われていた技術がどのようなものだったのかを実際の電話機や電話交換機、アンテナなどの実際の資料を自ら見ることで、今まで学習してきた内容がどのように使われていて、応用され進歩してきたかを学ぶことができました。

様々な企業や資料館などを見学することによって、今後の進路についてしっかりと考えることができた、とても有意義な総合研修旅行となりました。



4年5組
八木俊輔

情報科学・工学系では、NHK放送技術研究所、NTT技術史料館、NICT、コールセンター/CRM デモ&コンファレンス2025、富士通テクノロジーホール、樽前会、東京農業大学の7箇所の見学しました。

NHKでの超高解像度の360度カメラを使用したイマージブメディアが非常に高いビットレートを誇っていたことが印象に残っています。

NICTでは、日本標準時を作っている場所を見学したことが印象に残りました。

富士通テクノロジーホールでは、FACOM138Aという1957年に作られたリレー式計算機が動作しているところを目の前で見ることができたことが印象に残りました。

日本の最先端の技術と、歴史を間近でみることができ、非常に良い経験になりました。





ニュージーランドEIT研修座談会

◎参加しようと思ったきっかけは？

遠藤 昨年、一昨年、タイ研修とシンガポール研修に参加しました。今までアジア以外の国、南半球には行ったことがなかったこと、欧州風？の国に興味があったので参加しました。

川崎 1点目は英語を流暢に話せるようになりたいからでした。普段の生活で英語を使うことがあまり無く、もう少し話せるようになりたいと思ったのがきっかけです。2点目は、僕は海外に行きたいことが無いので、海外を体験して日本では学べないことを学んでいきたいなと思ったからです。

星野 昨年、異文化交流キャンプに参加して、そこから英語クラブとか留学生と関わる機会が増えて、海外に興味を持ち始めました。海外に行ってみたくて思っていたときに、自分が行けそうな条件の研修プランだったので参加しました。

山平 今まで海外に行ったことが無く、純粋に海外に行きたかったからです。自分の世界観を広げたいと思っていました。もともと英語は好きな科目で話すのも学ぶのも好きでしたが、普段の授業の中で、スピーキング力を上げるということがだけにフォーカスする、なかなか向上しないので、生きた英語を学ぶためにこの研修に参加しました。

近藤 以前、タイ・カセート大学での研修に参加し、そこで更に海外に興味を持ちました。留学先のホームステイ経験もなかったため、今回の研修でホームステイしてみたいと考え参加しました。

大沢 4月頃まで全く海外に興味がなかったのですが、海外就職を考えている友達と話をし、「このまま海外を知らずに国内で就職してもいいの？」と思い、就職する前に一度海外に行きたいと思いました。4年生からは就活や研究、インターンシップなどで忙しくなりそうなので、今の時期が一番いいタイミングだなと思って研修に参加しました。

三和 自分の英語に対する見方にも変化が欲しかったからです。日本で英語を学んできて、実際に使った経験があまりにも少ないので、英語が身の回りにある環境で生活してみたいな感じです。また、4年生以降はインターンや学校行事で忙しくなり行くのは難しいなとも考えました。単位が修得できるという魅力でした。

堀 1年生のときに、学校の海外研修に参加して、もっと色々な国に行きたいなと思ったのがきっかけです。姉もニュージーランドに行ったことがあったので、去年はオーストラリアに行ったので、自分の中でハードルが低い国で、行ってみたい国だったので、行くことを決めました。

有馬 英語面についてはどうでしたか。2週間ホームステイをして、現地で英語の授業も受けて、上達したなという感覚はありましたか？

星野 ホストファミリーと頑張って色々な話を話したら、以前より英語を使うハードルが下がった気がします。文法

が分からなくても単語を沢山出して、ジェスチャーも使えば伝わって嬉しかったのが印象に残っています。
有馬 それは非常に良い体験でしたね。正しく英語を話せるということだけでなく、自分のスタイルを磨く努力というか、いかに「コミュニケーションを取るのかも大事です。

◎研修を振り返って印象に残っていることは？

遠藤 バス通学の際に「満員」と表示が出て、スルーされちゃったことです。その時、同じくEITに行く人がいて一緒に行くというこにかなり仲良くなって、連絡先を交換したということがあります。

川崎 EITの授業ですね。日本の学校では先生の板書を見ながら講義を聞きますが、EITでは学生主体で、学生が話して、先生が聞きながら授業を進めるような学生と先生と一緒に授業をするようなスタイルです。あまり体験したことがないし、楽しかった。すごく印象的でした。

星野 「Hello」から始めて、「How are you?」と会話が始まって朝から気持ちがハッピーになりました。2つ目は、先生がフレンドリーなところ。事前研修で「あまり先生との上下関係がない」と調べていたので、それを実際に確かめました。遠征に行ったときも日本だったら先生が「時間だから次へ行く」と言う場面でも、僕たちの担当の先生は「こちらが満足するまでその場所に付き合ってくれ。面白いし、優しいし、教えるのが上手でした。

山平 EITでは、英語を積極的に話す場面が多く、授業を聞くだけでなく、自分が伝えたいことを英語で話して先生に理解してもらって授業スタイルが多かった事です。

近藤 ホストファミリーとの交流です。ホストファミリーに、僕と同じくらいの年代のお子さんが出て、その子と一緒にバドミントンやチェスをしたり、ホストファミリーが教会に行くの同行したりしました。中でも、最終日に僕がお好み焼きを日本料理として作って、喜んでくれたこと、喜んでくれたこと、喜んでも嬉しくて印象に残っています。

大沢 到着して数日後に、英語を書く練習にちょうど良いからホストファミリーに手紙書いてみたんですけど、ステイ先が一緒に堀さんからアドバ

イスされて、それいいなあと感じて手紙を書きました。渡した次の日にその手紙が冷蔵庫に貼ってあって、しかも手紙の文字全体を囲むようにめっちゃかわいいハートマークがカラーマッキーで書いてあったんです。めちゃめちゃ海外だなんて愛情表現がイラストレートなんだなって思いました。

三和 英語の発音が日本で習ったものとはだいぶ違っていました。簡単な単語も、最初は何と言っているのかわからなかったことがあります。あと、実際に英語を話す時、翻訳アプリとかを併用すると早く話せました。ただ、音声入力しながら話すと、相手の印象も良くないので、正しさよりも返答の速さだったり、パッションだったので伝える方が印象も良くなるかなって感じました。

堀 私はニュージーランドの人たちの温かさがすごく印象に残っていて、晴れた日に学校に歩いて行った時、近所の人に「グッドモーニング」という、快活な挨拶と笑顔を返してくれて、いいなって思っていました。学校でも先生や他の学生に挨拶すると必ず返してくれて、少しでも色んな人と関わったのがとても嬉しかったです。

◎研修に参加して得たものは？

遠藤 挑戦力です。三和ちゃんと一緒にマオリ語の授業を受けに行ったり、知らない人ともほとんど会話や連絡先を交換できたりという行動力・実践力ですね。

川崎 英語のリスニング力とスピーキング力です。EITでもホストファミリーの家でも、英語が身近だったので、自分なりに解釈して理解し、言語化する能力が身に付いたかなと思います。あとは対応力ですね。ホームステイ先で、トラブルや文化の違いがあったんですけど、どう自分の英語で伝えるか、どうすればもっといい生活できるかなって考えて行動することができました。

星野 相手の話を聞く力と挑戦力がつきました。あと、今回の留学では食べ物や一切残さないという決意をしていました。野菜などが苦手ですが、ホストファミリーがすごく料理上手で、苦手なものも頑張って食べていたら、意外と美味いと感じるものもあって、日本帰ってから食べられず、不安なことが多かったけど、決めたことを守って恐れなくなりました。意外とできたことも多かったので、挑戦することが楽しいことと分かりました。

山平 研修中、英語を沢山使った結果、英語を話すハードルが低くなって、自分が知らない単語とかが出てきても、ジェスチャーでどうにかして伝える力が身につきました。知らない土地に行き、文化・伝統が違う中で生きていかなければいけない状況で、それにどう合わせていくか考える力を身につけました。

堀 自分の意見をアウトプットする力が身についたと思っています。動画を見て、それについて意見を言ったり、ディスカッションしたり、説明したりする授業が多くて、最初はうまく論理的に話せませんでした。文章を書くのがすごく苦手でしたが、課題に取り組みくことで、言葉を組み立て論理的に話すスキルが身につきました。

有馬 皆さん素晴らしいです。困難なことや不安なことがあってもチャレンジして乗り越えてきて、すごく自信になっていると思います。国際交流だけじゃなく、これから色々な学校生活、社会生活で出てきたことを乗り越える自信になると思うので、良い経験になったと思います。



- ① インターンシップ先の社名と所在地を教えてください。
- ② インターンシップの日数と期間は?
- ③ その受け入れ先を選んだ理由は?
- ④ 行く前に不安だったことは?
- ⑤ 受け入れ先でどんな仕事を体験しましたか?
- ⑥ 振り返って特に印象に残っていることは?
- ⑦ 今だから言える失敗談は?
- ⑧ 楽しかったことは?
- ⑨ インターンシップで得たものは?
- ⑩ 後輩へのアドバイスは?

- ① DMG森精機株式会社 伊賀事業所：三重県伊賀市
- ② 8月25日（月）～9月5日（金）：10日間
- ③ 産業を支える工作機械が、現場でどのように開発・運用されているのかを学びたいと考えたからです。特に、5軸加工機や複合加工機といった高精度な技術に加え、IoTや自動化、CO2削減など社会課題にも積極的に取り組んでいる点に大きな魅力を感じました。また、交通費や宿泊費を負担していただけることや、日給が発生すること、10日間参加すると単位が免除される点も理由の一つです。
- ④ 知らない土地や環境の中で、年上の方々と一緒に働くことがほぼ初めてだったため、不安がありました。
- ⑤ 1週目は、工作機械に不具合が発生した際に作動するアラームの内容を分析し、課題解決を行いました。2週目は、海外エンジニア向けに、修理に必要な情報を検索ツールで調べながら作業を行い、エンジニアの力量を把握するための課題を考えて講習を行いました。
- ⑥ 工場見学で、一戸建てほどの大きさがある工作機械を見たことが印象に残っています。工具の交換や、加工後の部品がベルトコンベアで搬出されるなど、1台の機械でほとんどの工程を一貫して行える自動化技術の進展に驚きました。また社内カフェが無料で利用出来たので何杯もドリンクを飲みました。
- ⑦ 私は特に大きな失敗はありませんでしたが、インターンに参加するまでが大変でした。IPSテスト、面接、Webテストという3つの試練を乗り越えて参加できたため、そこまでの過程がとても苦労しました。

- ⑧ 同じインターンに参加していた大学生の先輩方がとても優しく、一緒に食事をしたり、大学生活の話や聞いたりして楽しい時間を過ごせました。報告会の発表では、自分には思いつかないようなアイデアやプレゼン力の差を感じ、良い刺激になりました。休日に伊勢神宮へ参拝しに行き、伊勢グルメも満喫しました。
- ⑨ 実際の職場の雰囲気を知ることができました。工作機械を止めず、生産をストップさせないことを重視し、サービスエンジニアとして常にお客様を第一に考えている姿勢を学びました。
- ⑩ 授業で企業の方から説明を受けるだけでは、実際の職場の雰囲気や仕事内容は分かりにくいと思います。実際に現場へ足を運び、雰囲気を体感することで、「ここで働きたい」「自分には合わないかもしれない」といった多くの発見があります。社会人の方々と一緒に働き、的確なアドバイスをもらえる経験はとても刺激的です。また、就職や進学においても成績が良いほど選択肢が広がるので、日々の勉強も頑張ってください。



4年1組
加藤純暉

- ① ドービー建設株式会社：静岡県掛川市
- ② 8月18日（月）～8月22日（金）：5日間
- ③ 設計業務と施工管理業務の両方があり、自分が設計職と現場監督とどっちが向いているのか確かめたかったからです。
- ④ 現場の職人さんが怖そうで不安でしたが、実際は優しく教えてくれて安心しました。
- ⑤ 水準測量や橋桁の計測、設計業務の説明がありました。
- ⑥ 学校の測量学実習で行ったことがそのまま現場で使われていたことにびっくりし、改めて日頃の勉強や実習が大事と感じました。就職を見据えて普段の授業を真面目に受けようと思いました。
- ⑦ 鉄筋コンクリートの鉄筋を針金で留める作業で、他のインターン生がすつなくなしている中、1時



間たっても上手くできませんでした。また、測量で誤差が大きく再測になりました。少し恥ずかしかったです。

- ⑧ 全ての実習が楽しかったのですが、初めて聞く現場の作業や技術提案、地域住民への配慮などの説明が印象的で心に残っています。
- ⑨ コミュニケーション能力がとても大事だと感じました。同期だけでなく、上司や職人さんたちの関わり方も学ぶことが多かったです。また、安全第一で現場を管理するために徹底した安全確認の重要性も強く感じました。
- ⑩ コミュニケーション能力がとても重要だと感じたので、自分のコミュニティを限定せずに、先輩後輩の縦のつながりや、他のクラスとの横のつながりなど、いろんな人と関わっておくのが大事だと思います。また、インターンシップへ行く前に会社の強みや、携わった事業などをよく調べてから行くことより充実した時間を過ごせました。



4年2組
川上拓夢

- ① 花王株式会社 和歌山工場：和歌山県和歌山市
- ② 期間：8月25日（月）～8月29日（金）：5日間
- ③ もともと化粧品に関わる仕事に興味があり、身の回りの化粧品や日用品に花王の製品が多かったことから関心を持ち、より深く知りたと思いました。
- ④ 企業の方に失礼がない振る舞いができるか、正しい言葉遣いができるか不安でした。また、行ったことのない土地で交通機関を間違えずに行けるかも心配でした。
- ⑤ 主に液体洗剤や粉末洗剤を製造する工場の見学を行い、工程内監査の業務体験などをしました。
- ⑥ よきものづくりの工夫が多く、一つの製品を作る中で環境への配慮が徹底されていると感じたことです。また、働く方々の雰囲気が明るく、襟が乱れていた際に人事の方が優しく直して下さったことが強く印象に残っています。
- ⑦ 事前に作業着のサイズを選べる案内があったのに、直感でMを選んだら、ズボンが思ったより小さくて、破けたりしないか結構心配しながら実習しました。破けなかったですが、ヒヤヒヤしたのでサイズ表記をちゃんと確認すべきでした。
- ⑧ 道外の人ともたくさん話せて全国に友達ができたことです。インターン中は真剣に取り組む仲間と一緒に、カラオケに行ったりして楽しい時間を過ごせました。
- ⑨ 花王の歴史や業務内容、環境に配慮した工夫や効率化のアイデアを学ぶこ



4年3組
田中胡桃

とができました。また、仕事での慎重さやコミュニケーションの大切さを実感し、自分の学びが将来につながることを感じる貴重な経験になりました。

- ⑩ 行ってみると企業への理解が深まり、仕事の雰囲気がつかめるので、インターンシップにはぜひ参加することをおすすめします。早いうちから、自分はどうな企業に行きたいか、どのインターンに参加するかを考え、企業情報を集めておくことより充実した経験になります。

インターンシップQ&A

- 1 中部電力グループ：愛知県名古屋市
- 2 8月12日（火）～8月19日（火）：6日間
- 3 インフラ関係に興味があり、電力会社を中心にインターンシップ先を検討していました。そんな中、実習メインという内容に魅力を感じ、この企業を選びました。
- 4 愛知県・岐阜県の複雑な公共交通機関を利用するため、目的地に着けるかが不安でした。
- 5 電柱を建柱するために住宅地図に電柱の配置を考える演習と、シミュレーションを使用しての配電線操作の体験と高所作業車への乗車、工具を用いた実習を行いました。
- 6 社員の方が一番誇りを感じる時として、自分が建てた電柱がその土地に50年残り続けること、とおっしゃっていたことです。電柱の寿命は約50年だそうで、自分が設計または点検等がかかわった電柱がこれから先ずっと各家庭に電気を届け続けるのだという使命感に感動しました。
- 7 ヒールのある靴は避けてください、という案内が事前にはありましたが、スーツを着用するのでパンプスを履いていきました。当日、他の高専生の足元を見てみるとスニーカーなど歩きやすい靴を着用していました。現場にも行きましたが、転びそうになったこともあり、スニーカーを持ってればなと思う瞬間がありました。靴は迷うようなら2足持つていくことをお勧めします。
- 8 高所作業車への乗車が楽しかったです。ゴンドラを最長の16mまで伸ばしても

らい、普段見上げる存在である電柱と同じ目線から街の景色を見せられました。また、ゴンドラをスイスイと操作する社員の方を見て、現場で使う技術のすごさを感じました。

- 9 他高専出身の方ではありませんが高専OB・OGの方との座談会があり、業務に関する質問や飲み会・プライベートな質問など普段なら聞きにくい内容も聞くことができました。職場内でも案内してもらったので社員の方々の雰囲気や出勤時の服装、更衣室も見せていただいたので出勤から業務につくまでの流れをつかむことができました。将来自分がこの会社で働いたときのルーティンを想像することができたのは非常に良い収穫でした。
- 10 高学年になると企業説明会など、企業の方が学校に来てお話をしてくださることが増えます。しかし、インターンシップは自分が会社に何うという形です。私は実際に現地に行くことで、そこでできない経験や学べなかった雰囲気等を得ることができました。もし気になる企業や業界があるのなら、ぜひインターンシップへの参加を検討してみてください。



4年4組
竹内海結

- 1 株式会社ヴィッツ：愛知県名古屋市
- 2 8月18日（月）～8月22日（金）：5日間
- 3 私は高専3年生の時にビジネスEXPOに参加し、企業のブースで「半歩先の技術で人々の生活を豊かに」という理念に強く惹かれたためです。
- 4 高専で培ったコーディング力、コード読解力が実務で通用するか不安でしたが、対人能力には自信があったため、何とか乗り越えようと楽観視していました。
- 5 インターンでは、本企業の主要製品のひとつである「WARXSS」とROS2（ロボットOS、python）を用いて、仮想的な空間で自動車の自動制御システムを開発しました。
- 6 会社が明るかったことでした。想像の中のIT企業は、壁がすべて真っ白で、窓からの光がなかなか入ってこないような高ストレス環境下での業務をしていました。しかし、会社は木目調でふわふわのソファがありカフェのような雰囲気でした。
- 7 パソコンを貸していただき、課題環境を開いてみると、システムの操作方法やコードが全く読めず、初日から挫折しました。普段はコードをAIにきいて理解していましたが、会社では当然



コードを張ることができないので苦労しました。

- 8 今まで知りえなかった他の学生や社員さんとコミュニケーションが取れたことが楽しかったです。チームのメンバと名古屋観光もできました。連絡も時々取り合っています。
- 9 挫折と学習意欲です。インターンシップではコードの理解に時間がかかり、自分的なシステムを考案することができなかったため、今のままでは、就職しても貢献できないと危機感を覚えました。その結果、スキルを磨くためにROS2の学習を始めました。
- 10 幸いにして、私の高専では本企業との縁が深く、私の系の先生は基本的に認知してくださっています。また、本選考を志望した時点で、内定をお受け取りになっていた先輩方も複数人いました。インターンシップに参加する前も期間中もは不安になると思います。しかし、他の学生さんと休憩時間に話すだけでも全然違うと思います。



4年5組
今泉匠瑛

- 1 グリーホールディングス株式会社：東京都港区
- 2 8月4日（月）～8月29日（金）：12日間（※週3回×4週）
- 3 自身の技術力や立ち位置を把握するため実務型インターンを志望し、趣味で行ってきた開発経験を企業の開発現場に触れながら実務で試したいと考えたため。
- 4 複数人で行う開発プログラムの経験が少なく、チーム開発についていけるか不安があったほか、自身の技術力が実務に通用する水準に達しているか心配していた。
- 5 実際に運用されているタイトルの開発業務に参加し、現場の開発プロセスや実務を体験した。
- 6 実際の開発現場で使われているプログラムや開発フローに直接触れられたことに加え、社員の方々から現場の率直な声を聞いた点が特に印象に残っている。実務で求められるスキルを具体的に理解できた。
- 7 作業を一人で抱え込みがちになり、進捗や課題について十分に情報共有できなかった点が反省点である。こまめに相談ややり取りをしていれば、より円滑に業務を進められたと感じている。
- 8 メンターの方との交流が特に楽しく、1on1や昼食の時間を通して開発の話だけでなく、仕事やキャリアについて多くの話を聞いたこと。

コードを張ることができないので苦労しました。

- 9 インターンを通して、他の人が触れることを意識した可読性の高いコードを書く姿勢を身につけることができた。また、円滑な開発には技術力だけでなく、日頃のコミュニケーションが重要であると実感した。
- 10 学内の活動だけでは自分の実力や立ち位置は見えにくいため、インターンやコンテストなど学外の取り組みに積極的に参加してみることが大切だと思います。その中で得意・不得意を知り、自分が何をやりたいのかを明確にすることで、今後の学びや進路選択に活かせるはずです。



創造工学専攻
情報エレクトロニクス系 1年
榎本侑太



異文化 交流 キャンプ

国際交流担当 アルテアガ・アルテアガ・フェルナンド

2025年に、第2回目となる異文化キャンプを実施しました。本キャンプは、苫小牧高専の日本人学生および留学生、ならびに北海道大学理学部に所属している留学生が参加する国際交流イベントで、7/19(土)～7/20(日)までの1泊2日の日程で、小樽にある北海道大学忍路臨海実験所の施設を使用し開催されました。本校から14名の学生が参加しました。

当イベントは、英語によるゲームや共同活動を通じて、英語運用能力およびグローバルマインドセットの向上を目的として実施しました。施設でのBBQの準備は、英語でコミュニケーションを取りながら参加者全員が協力して作業を行いました。その後、フィリピン出身の留学生が手作りしたデザート「Maja Blanca(マハ・ブランカ)」を皆で味わいました。また、夏季開催ということもあり、スイカ割りも体験しました。

さらに、参加学生がPowerPoint(2-3枚のスライド)を用いて、英語による自己紹介および文化・趣味の発表を行いました。北大の留学生と積極的に交流することができ、参加者からは「非常に有意義なイベントだった」という感想が多く聞かれました。

来年度も開催を予定していますので、ぜひまた皆で参加しましょう。



マラヤ大学ジョイントシンポジウム

苫小牧高専は、マレーシアのマラヤ大学との国際学術交流協定に基づき、教育・研究・学生交流の国際化を積極的に推進しています。今後も、海外大学との連携を通じて、本校学生が世界を舞台に活躍できる素地を育むことを目指しています。

その具体的な取組の一つとして、2025年12月5日に両校の教員および学生によるジョイントシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、研究活動や教育手法の共有を通じて、互いの理解を深めるとともに、学生の国際的な視野を広げることを目的としたものです。

当日は、学生および教職員あわせて80名を超える参加があり、大変盛況のうちに終了しました。

また、本シンポジウムの一環として、本校が推進するグローバルエンジニア育成事業を活用し、高学年生および専攻科生による英語での研究発表も実施しました。各専門系から選抜され



た10名の学生が、日頃取り組んでいる研究内容を英語で堂々と発表しました。慣れない英語による発表に果敢に挑戦し、最後まで自分の言葉で相手



に伝えようとする学生たちの姿は、国際社会で活躍する技術者を目指す強い意志を感じさせるものでした。

なお、ショートプレゼンテーションを行った8名の学生のうち、特に優秀な発表を行った学生として、以下の2名に優秀発表賞が授与されました。

創造工学科5年(情報科学・工学系)駒木 允

創造工学科5年(情報科学・工学系)Sombanguay Saptawan

苫小牧高専では、今回のジョイントシンポジウムを契機として、マラヤ大学との連携を一層強化するとともに、教育・研究の国際化をさらに推進していきます。今後も、共同研究や学生交換などの取組を通じて、本校学生が海外の大学や研究者と協働しながら学びを深める機会を拡充していきます。

「苫小牧高専地域連携シンポジウム2025」を開催しました

地域共同研究センター長 高澤幸治

12月22日（月）に、グランドホテルニュー王子にて「苫小牧高専地域連携シンポジウム2025」を開催しました。

本イベントは、地域・社会に向けて本校が取り組む諸活動の発表や報告等を行い、今後の教育研究活動及び産学連携活動の発展に繋げるとともに、本校と地域企業等の連携強化を図ることを目的として例年開催しております。

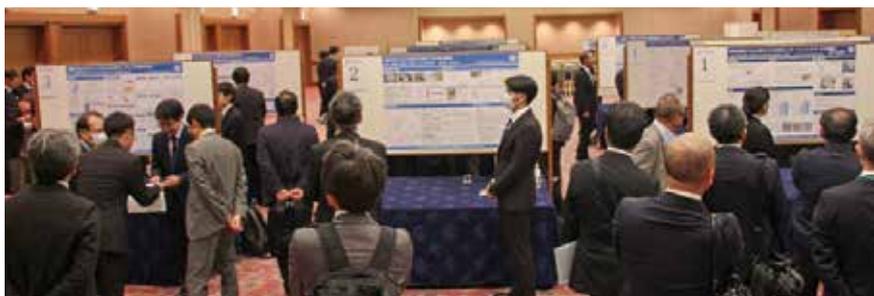
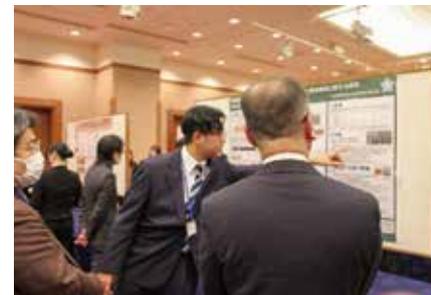
講演会では株式会社FJコンポジット代表取締役 津島栄樹氏から「ベンチャー起業から北海道進出、今日まで」をテーマにご講演いただきました。

引き続き、ポスターセッション形式で専攻科1年次学生21

名による研究発表を行うとともに、本校教員等による研究成果発表を実施しました。

講演会も大変好評であり、専攻科生の研究発表では専攻科生と協力会会員との活発な議論及び交流が行われておりました。また、シンポジウム後には本校協力会主催による交流会が開催され、苫小牧市テクノセンター鈴木館長や協力会会員など多数の方に参加いただき、本シンポジウムと合わせて、協力会会員及び本校教職員、学生約150名が懇談を行い、本校と協力会・地域との連携を再確認する一日となりました。

会場の様子（シンポジウム）



会場の様子（交流会）



キャリア教育センター活動報告

キャリア教育センター長 二橋創平

2025年度は、生成AIの社会実装の加速、先端産業分野における人材需要の増大、働き方の多様化など、技術系人材を取り巻く環境が大きく変化した一年でした。産業界では、従来の専門知識に加え、課題解決力やコミュニケーション能力、自ら学び続ける姿勢がより一層求められており、本校にも総合的なキャリア形成支援の充実が期待されています。

求人状況は引き続き堅調に推移し、幅広い業種から多くの求人が寄せられました。少子化による人材不足や先端技術の高度化を背景に、技術者教育機関である高専への期待は年々大きくなっています。進路実績においても、学生は就職・進学 of いずれにおいても、多様な選択肢の中から自らの適性と希望に基づいて進路を選択しました。

キャリア教育センターでは、「変化の激しい社会で、自らのキャリアを主体的に築く力」の育成を目指し、学年に応じたキャリア支援を段階的に実施しました。

1年生・3年生対象のジョブトークⅠ・Ⅱでは、多様な業界で活躍する社会人と直接対話することで、仕事の意義や職業観を深める機会を提供しました。

4年生・専攻科1年生対象の企業合同研究会では、前日夜の地震の影響がある中でも、多くの企業の協力を得て説明会を開催し、学生が主体的に情報収集を行い、職業選択への理解を深められる場となりました。

また、進学希望者に向けた大学院説明会、就職希望者へのガイダンスや面接対策など、個々の進路に応じた支援も継続的に実施しました。

さらに、社会の最新動向を踏まえた講演会やキャリア講話も実施し、学生が先端技術や産業構造の変化に触れる機会を提供しました。これらの取り組みは、学生が将来のキャリアを考える上で、社会の変化を理解する重要な契機となっています。

VELOCIPED.

キャリア教育は、単に就職活動を支援するだけではなく、将来にわたって「学び続ける力」や「社会に貢献する姿勢」を育む取り組みです。キャリア教育センターでは今後も、企業・大学・研究機関との連携を強化し、学生が多様な進路に向けて主体的に成長できるよう、実践的なキャリア形成支援を推進してまいります。



「第16回北海道地区高専英語プレゼンテーションコンテスト」で本校学生が優勝！

11月2日（日）に苫小牧高専で「第16回北海道地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」が行われました。本コンテストには、旭川高専・釧路高専・苫小牧高専から計5名の学生が出場し、本校からは3年2組（都市・環境系）の塙結起乃さんと、1年5組の中野杏南さんが出場しました。

【発表タイトル】 塙結起乃：「Japanese Architecture in Our Future」

中野杏南：「Hidden Power in the Worn-out」

塙さんは、諸外国の建築物の特徴やあり方に触れながら、未来の日本の建築のあり方について自分の考えを発表しました。中野さんは、期限切れの日焼け止めや調味料の新たな活用法に注目し、コスメロスやフードロス削減につながる提案をしました。コンテストの結果、塙さんが見事優勝し、全国大会への出場が決まりました。

全国大会である「第19回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」は、令和8年1月24日（土）、25日（日）に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われます。

【北海道地区コンテスト結果】1位：苫小牧高専 塙 結起乃さん／2位：釧路高専 葛西桜子さん／3位：釧路高専 関本桔平さん



本校専攻科生が日本福祉工学会学術講演会で優秀ポスター発表賞を受賞しました

2025年11月29日（土）に関西大学千里山キャンパスで開催された日本福祉工学会第29回学術講演会において、専攻科創造工学専攻（情報エレクトロニクス系）1年の川田侑弥君（指導教員：電気電子系 堀勝博教授）が、「電動車いす用先導ロボットシステムにおける動的障害物回避アルゴリズムの改良」の題目で電動車いす用サポートロボットに関する研究成果発表を行い、優秀ポスター発表賞を受賞しました。この賞は優秀な若手の研究発表に授与されるものであり、今後の更なる活躍が期待されます。



苫小牧工業高等専門学校が「学校賞」を受賞！～第13回高校生ビジネスプラン・グランプリ表彰状授与式を開催～

本校は、日本政策金融公庫が主催する「第13回高校生ビジネスプラン・グランプリ」において、「学校賞」を受賞しました。この賞は、全国の応募校の中から起業家教育の推進に熱心に取り組んでいる学校に贈られるもので、北海道からは2校、全国で32校が選ばれました。令和7年12月16日（火）、本校校長室にて表彰状授与式が行われ、日本政策金融公庫から直接表彰状が授与されました。

■ **受賞の背景** 本校では、AI・データサイエンス教育の一環としてアントレプレナーシップ教育を推進し、学生全員がビジネスプランの創出に挑戦しました。今年度は368名の学生が71件のビジネスプランを応募。学生たちはグループを組み、DXやデジタル技術を活用したビジネスアイデアを考案しました。この取り組みは、今年度初めての取組で、日本政策金融公庫による出張授業などの支援と苫小牧高専教員による授業を組み合わせ実施しました。

■ **学校コメント** 今回の受賞は大変喜ばしく思います。学生全員にアントレプレナーシップ教育を提供することを目的に、全員がコンテスト応募を目指しました。今回の受賞は、学生の努力と日本政策金融公庫の皆様のサポート、ならびに、関係教員のご協力の成果です。今後とも地域や社会に貢献できる人材育成に取り組んでいきます。



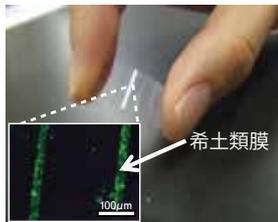
ソフトopt界面工学研究室

応用化学・生物系 渡邊 智

研究室紹介

童話『星の王子様』に登場する「本当に大切なものは目に見えない」という一節をご存じでしょうか。応用化学・生物系の分野では、物質の中にある目に見えない原子や分子を扱っています。私たちの研究では、さらにその中でも特に観測が難しい、分子や原子の間に働く「弱い力」に注目しています。力そのものは目に見えず、分子間に働く力は非常に弱いため、日常生活の中でその存在を意識することはほとんどありません。しかし、こうした「弱い力」は確かに存在し、生物の鼓動、高分子材料の柔らかさ、液体の流れやすさ、さらには物質が赤外線を放射する性質など、地球上の重要な物質特性や現象を支えています。

本研究室では、この「弱い力」を巧みに制御することで、新しい材料や計測技術を生み出す研究を行っています。その一例が、プラスチック基板上に希土類セラミックスを形成する画期的な技術です。一般的にセラミックスは500℃以上の高温



で焼結する必要があり、その過程でプラスチック基板は燃えてしまいます。そこで私たちは、あらかじめ焼成して作製した希土類ナノ粒子の大きさを精密に調整し、溶媒中では分散しながらも、基板に吸着すると剥がれにくくなるよう「弱い力」を設計することで、この課題を克服しました。この技術を応用し、生体内を遠隔操作できるマイクロマシンや、微量な物質同士の相互作用を分析できる超高感度熱量計の開発にも成功しています。さらに、薄膜や単結晶の形状・サイズを自在に制御する技術なども報告しています。現在、私たちの研究室では専攻科生1名、本科生5名が中心



となって研究に取り組んでいます。少しでも興味を持っていただけたら、どうぞお気軽にお声がけください。

人事異動

○令和7年10月21日付

非常勤教職員

【採用】

研究支援員（松尾准教授研究室）

土居 真澄

○令和8年1月31日付

非常勤教職員

【雇用期間の満了】

事務補佐員（有馬准教授研究室）

技術補佐員（渡邊准教授研究室）

技術補佐員（渡邊准教授研究室）

技術補佐員（渡邊准教授研究室）

魚 住 侑

平 凌 嘉

丸 山 拓 海

横 内 杏 亮

○令和8年2月1日付

事務職員・技術職員

【採用】

技術教育支援センター技術職員

寺岡明日香

高専通信

Vol.170 CONTENTS

1	新年のご挨拶 新学生会長・新寮長の挨拶	5	第3学年道内工場見学旅行	11	異文化交流キャンプ マラヤ大学ジョイントシンポジウム
2	高専祭 冬季体育大会	6	第4学年総合研修旅行	12	地域連携シンポジウム
3	保護者懇談会 科学のとびら	7	ニュージーランドEIT研修座談会	13	キャリア教育センター活動報告
4	ロボコン	8		14	TOPICS 研究室紹介 人事異動
		9	インターンシップQ&A		
		10			

編集後記

今回の高専通信では、見学旅行・研修旅行・国際交流活動・高専祭・体育祭をはじめとした学校行事を中心として、前号発刊からの本校の動きをお伝えしました。最新の情報は、本校Webサイトをご覧ください。

さて、今後本校では機関別認証評価の受審を控えております。これは本校が高専として教育研究水準の向上に資するため、7年以内毎に認証評価機関が実施する評価を受けることが義務付けられています。この認証評価においては、本校に所属する学生・教員のみならず、保護者の皆様、卒業生や卒業生の就職先企業などからの評価が求められます。今後、この皆様にご協力をお願いすることがありますので、その際はご協力ならびに忌憚のないご意見を賜れば幸甚に存じます。

総務主事補 土居茂雄

[高専通信に関するお問い合わせ先]

苫小牧工業高等専門学校 総務課総務係 〒059-1275 苫小牧市字錦岡443 TEL.0144-67-0213
[MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

